

令和9年度 公立学校教員採用候補者選考試験問題

美術

1 / 7 枚中

注意 答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。

第1問題 人体の関節や重心の位置に着目し、躍動感や生命感を感じさせる動きのある人物像を、粘土で立体的に表現する活動を行う。資料1を読み、後の問に答えよ。

資料1 〈学習のねらいと活動の流れ〉

学習のねらい

人体の関節や重心の位置に着目し、躍動感や生命感を感じさせる動きのある人物像を、粘土で立体的に表現する。また、様々な動きのある人物彫刻作品の鑑賞や生徒作品の相互鑑賞を通して、造形的なよさや美しさ、作者の表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深める⑦。

活動① 学習内容を知る。

活動② 動きのある人物彫刻の作品を鑑賞し、動きを感じさせる造形的要素をとらえ、作品のよさを味わう。

活動③ 生徒同士でポーズをとり合い、体の反りや傾き、ねじれ、のびる、ためるなどの動き④を体感し、多方面からクロッキーしたり、タブレット端末のカメラで写真を撮ったり、小さな模型（雛型）を作ったりしながら形を立体的に理解して主題を生み出し、構想を練る。

活動④ 人体の関節や重心の位置を意識しながら針金と麻ひもで芯を組み、土粘土⑤をつけて立体で表現する。

活動⑤ 完成した作品を相互鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。

問1 資料1の「学習のねらい」の下線部⑦について、育成することを目指す資質・能力の三つの柱のうちのどれに対応するか。次のA～Cから一つ選び記号で答えよ。

- A 知識及び技能
- B 思考力、判断力、表現力等
- C 学びに向かう力、人間性等

問2 活動②で、表現活動に生かすことができるように、下のA～Cの彫刻作品を鑑賞した。これらの作品について、後の問に答えよ。

A

B

C

著作権等保護の観点から掲載いたしません

A: 青の踊り子 (1913年 アレキサンダー・アーキペンコ)  
B: ふざけっこ (1964年 佐藤忠良)  
C: 円盤投げ (ミュロン)

(1) 次のア、イの特徴に、最もあてはまるものをA～Cからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

ア 渾身の力を込めた極度の緊張感が伝わる力強い動きを表している。

イ 片足を支点に体を大きく弓のように反り、上肢を舞うように広げ、軽やかな動きを表している。

(2) Bは粘土を付けたたり取ったり、指やヘラの跡を生かしながらつくった像を原型としている。このように、粘土で肉付けをして像をつくることを何というか。漢字2文字で答えよ。

問3 活動③の下線部④について、美術用語では何というか。次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

- ア コントラスト
- イ 立体感
- ウ ダイナミズム
- エ 動勢
- オ 律動

問4 活動④の下線部⑤について、特徴として適切なものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 乾燥して固まると、削ったり、やすりで形を整えたりでき、絵の具で着色することもできる。
- イ 薄く伸ばしたり、色を練り込んだりできる。透明度が高い。
- ウ 乾いても、水分を含むと、また軟らかくなる。
- エ 非常に軽い粘土で、色を練り込むことができ、乾燥後に着色することもできる。

問5 資料1の授業を行うことを想定し、学習のねらいや活動内容が生徒に伝わるような題材名を記せ。また、そう考えた理由について資料1〈学習のねらいと活動のながれ〉をふまえて説明せよ。

第2問題 学校近隣の公園に設置するユニバーサルな視点を取り入れた遊具をクラスでデザインする題材について、資料2を読み、後の問に答えよ。

資料2 〈学習活動の流れ〉

活動① 学習内容を知る。

活動② ワークシートやアイデアスケッチ⑦を通して、主題を生み出し構想を練る④。

活動③ 色や形などの単純化や省略、強調、材料などの組み合わせを考え、デザイン案を決める。

活動④ \_\_\_\_\_

活動⑤ \_\_\_\_\_

活動⑥ \_\_\_\_\_

活動⑦ \_\_\_\_\_

活動⑧ \_\_\_\_\_

問1 資料2〈学習活動の流れ〉活動④～⑧の空欄箇所にあてはまる活動として適切なものを、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

- ア 選んだデザイン案をさらに練り直し、プレゼンテーションボードに表現する。
- イ プレゼンテーションシートのデザイン案の中から、よいデザイン案のいくつかをクラス全員で選ぶ。
- ウ デザイン案をもとに、プレゼンテーションシートに表現する。
- エ プレゼンテーションボードに表現したデザイン案の中から、最もよいデザイン案をクラス全員で選び、遊具のデザインを決める。
- オ 表現したプレゼンテーションシートをもとに相互鑑賞し、それぞれのデザイン案について感じたことや考えたことを説明し合う。

問2 活動②の下線部⑦において、遊具のデザインについて生徒の考えなどを広げたり深めたりするためにグループワークを行うことにした。下の文章は、この活動についての「指導上の配慮事項」の一つである。□⑨□、□⑩□にあてはまる語句を答えよ。

表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりすることなどの「□⑨□的な学び」の視点が重要である。このような□⑩□活動の充実を図ることで、お互いの方見方や感じ方、考えなどが交流され、新しい見方に気付いたり、価値を生み出したりすることができるようになる。

問3 資料2 活動②の下線部④について、後の問に答えよ。

(1)「主題を生み出し」に関する適切な内容を、次のア～ウよりすべて選び、記号で答えよ。

- ア 公園や遊具を使う人の立場や社会との関わり、遊び心などから、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描く。
- イ 公園や遊具を見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描く。
- ウ 公園や遊具の目的や条件などを基に、遊具の特徴や用いる場面などから、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描く。

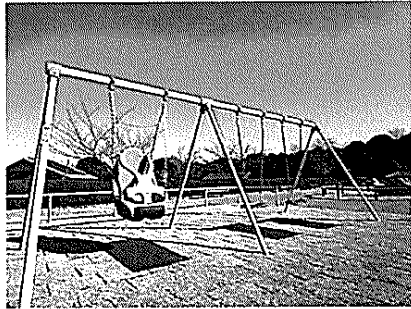
(2)「構想を練る」に関する適切な内容を、次のア～ウよりすべて選び、記号で答えよ。

- ア 公園や遊具から感じ取ったイメージや自己を見つめて生じた感情などを言葉にして書きとどめ考える。
- イ 公園や遊具の使いみちや使われる場所、場面、使う人などの条件に合わせ、美しさを効果的に表し、材料の特性を生かして構造的にも安定させることができるのかななどを総合的に考える。
- ウ 公園や遊具に対する自分自身の気持ちや心の中を見つめることで、より深く自己を理解し、自分の感情やものの考え方、価値観をもとに考える。

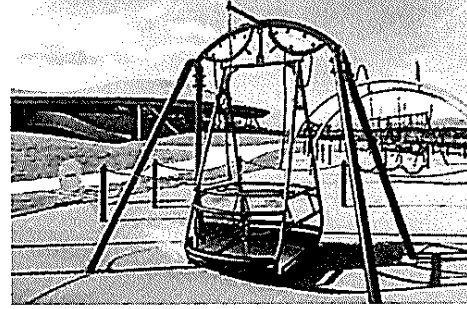
問4 表現活動に生かすことができるよう、下図の遊具作品を鑑賞する活動を行う。後の問に答えよ。

(1) 下の文章の  と図イの遊具作品設置施設名の  に共通する語句をカタカナで答えよ。

ユニバーサルデザインの視点から、異なる背景や特性を持つ人々が互いを認め合い、ともに生きることを目指してデザインされた図ア、イのような遊具を  遊具という。



図ア 鳥根県立万葉公園（鳥根県）【太陽の広場】サポート付きブランコ



図イ 山形市南部児童遊戯施設（山形県）【シェルター  プレイス コバル】車いすのまま遊ぶことができるブランコ

(2) 上図の遊具作品等を鑑賞する活動を行う場合、資料2の学習活動①～③のいずれの活動時に行うことが最も効果的であると考えるか、学習活動①～③の中から一つ選び、記号で答えよ。また、その鑑賞活動において、生徒にどのような学習方法を通して、どのようなことに着目させたいか記述せよ。

第3問題 造形表現に関する後の問に答えよ。

問1 水墨画に関する下の文章の  ～  にあてはまる語句を、下のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

なお、同じ番号には同じ語句が入るものとする。

水墨画は「墨に  あり」と称されるように、墨の  で色を表現する。水墨画の技法には、輪郭を描かず墨の  だけで対象を描く  法、墨が乾かないうちに異なる濃さの墨を重ねて描く  法、描いた墨が乾いてからさらに墨を重ねて描く  法など、数多くの技法がある。

- ア 濃淡
- イ 積墨
- ウ 五彩
- エ 破墨
- オ 没骨

問2 版画に関する下の文章を読み、後の問に答えよ。

下地にさまざまな材料を貼りつけて、版として刷ることで、部と部の両方を刷ることができる。版に使用したさまざまな材料の形や 、そしての違いをそのまま写し取ることができる。

- (1) 上の文章の～にあてはまる語句を答えよ。なお、同じ記号には同じ語句が入るものとする。  
 (2) 上の文章で示された版画の形式（種類）を何というか。カタカナで答えよ。

問3 仏像彫刻に関する下の文章を読み、後の問に答えよ。

仏師・定朝作 国宝「阿弥陀如来坐像」（1053年 平等院鳳凰堂蔵）は、仏像の頭部や胴体部などいくつかの部位に分割して彫り、それらを合体させて1体の像に組み合わせたのち内部をくりぬく「」という技法を用いて作ったヒノキの木彫像にを施し作られた、平安時代後期の仏像彫刻である。頭部はという渦巻き状の小さな髪の手で覆われ、瞑想の状態を示すという顔をなつかば閉じた半眼と重ねて組まれた手の形によって「こころ静かに」ということを表しており、悟りを開いた姿の仏像彫刻とされている。

- (1) 上の文章の～にあてはまる語句を、下のア～カからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。  
 ア 漆箔    イ 一木造    ウ 金箔    エ 白毫    オ 寄木造    カ 螺髪  
 (2) 上の文章中の下線部⑫について、伝えたいことを表している「仏像の手の形」を総称して何というか。漢字で答えよ。

問4 文字のデザインに関する下の文章を読み、後の問に答えよ。

文字を形づくっている点や線を、または字画という。基本的な書体には、サンセリフ体というアルファベットの書体を参考にデザインされ、全てのがほぼ同じ太さでつくられた体や、中国で成立した書体で、文字の横の線が縦の線よりも細く、横の線の右端角に（セリフ）という三角形の山があることに特徴がある体などがある。

- (1) 上の文章の～にあてはまる語句を答えよ。なお、同じ記号には同じ語句が入るものとする。  
 (2) 文字のデザインに関して、文字と文字の間隔が整って見えるように調整することを何というか。カタカナで答えよ。

第4問題 図版ア～コについて、後の問に答えよ。

### 著作権等保護の観点から掲載いたしません

- 図版ア 墓守 朝倉文夫
- 図版イ いちご泥棒 ウィリアム・モリス
- 図版ウ バタフライスツール 柳宗理
- 図版エ 黄・赤・青 ヴァシリー・カンディンスキー
- 図版オ サクラランプ、キクランプ エミール・ガレ
- 図版カ 毛皮のローブを着た自画像 アルブレヒト・デューラー
- 図版キ 富嶽三十六景尾州不二見原 葛飾北斎
- 図版ク グランド・ジャット島の日曜日の午後 ジョルジュ・スーラ
- 図版ケ 枢機卿 ジャコモ・マンズー
- 図版コ 穴の周りに敷き詰めたナナカマドの葉  
最後の葉を集めて  
ほぼ完成のところで  
イヌが穴に飛び込んだ  
再開し  
風の強い晴れの日には日陰でつくった アンディ・ゴールズワージー

問1 図版アは、『東洋のロダン』と呼ばれた日本の彫刻家の作品である。作者名と作品名を下のア～カからそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

ア 高村 光太郎    イ 萩原 守衛    ウ 朝倉 文夫    エ 坑夫    オ 墓守    カ 手

問2 下の文章は図版イに関するものである。□A～□Cにあてはまる語句または人物名を答えよ。

図版イは、19世紀のイギリスで活躍したデザイナーである□Aの作品である。□Aは□Bと芸術の統合を目指し、手工芸を大切にす芸術運動である□C運動を主導した。

問3 図版ウは、戦後日本のインダストリアルデザインの確立と発展に貢献したデザイナーの作品である。作者名と作品名を答えよ。

問4 下の文章は図版エに関するものである。□D・□Eにあてはまる語句または人物名を答えよ。

図版エは、ピエト・モンドリアン、カジミール・マレーヴィチとともに、自然の姿や形の再現ではなく純粋に色彩や形体などの造形要素だけで作品を構成する□D主義の代表的な作家の一人である□Eの作品である。

問5 図版オについて、後の問に答えよ。

- (1) ガラス工芸、陶器、家具など、19世紀に活躍したフランスの工芸家の作品である。作者名を答えよ。
- (2) 19世紀末から20世紀初頭にかけて広くヨーロッパで流行した、花や植物などの有機的なモチーフや曲線を多く用いる優美な装飾性が特徴の、フランス語で「新しい芸術」を意味する芸術運動を何というか。答えよ。

問6 図版カについて、後の問に答えよ。

- (1) 作者名を答えよ。
- (2) イタリアのフィレンツェから始まった、古代ギリシャやローマの人間を中心とした文化を理想として、その再生と復興を求めた運動を何というか。答えよ。

問7 下の文章は図版キに関するものである。□F～□Hにあてはまる語句または人物名を答えよ。

図版キは江戸時代後半に活躍した□Fの作品である。□Fは、□G版画だけでなく、絵師が直接、紙に描いた□Hや、絵を学ぶ際に用いる教材である絵手本など、さまざまなテーマと表現方法に挑戦し続けた。

問8 図版クについて、後の問に答えよ。

- (1) 作者名を答えよ。
- (2) 色彩理論を科学的・理論的に追究し、点描法により光を捉えようとする運動が起こった。これを何主義というか。答えよ。

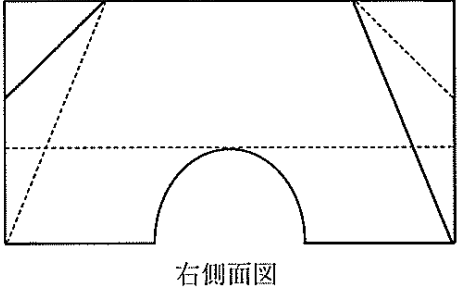
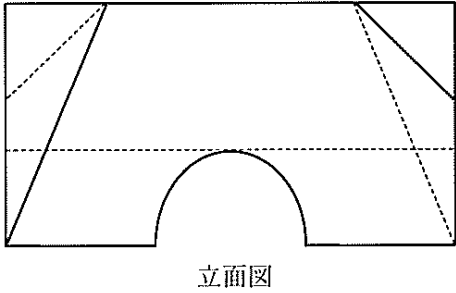
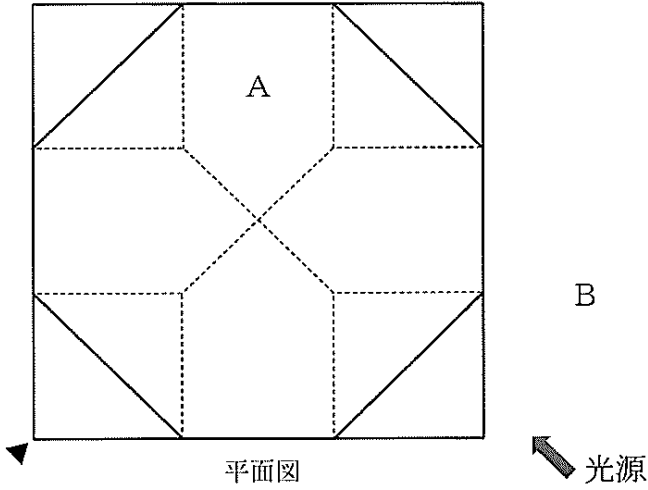
問9 図版ケは、マリノ・マリーニや、ペリクレ・ファッツィーニらとともに、20世紀のイタリアで活躍した彫刻家の作品である。作者名を答えよ。

問10 図版コについて、後の問に答えよ。

- (1) 穴の周りにナナカマドの葉を敷き詰めた作品である。作者名を答えよ。
- (2) 自然の中に人工物を設置したり、地表を改変するなど、自然や大地をそのまま作品に取り込んだ大規模な美術運動のことを何というか。答えよ。

第5問題 下の図は、ある立体を第三角法で表した三面図である。この三面図を読み取り立体化し、下記の条件に合わせて基底面とともにイメージする立体を描け。

- <条件>
- ①描く視点を、平面図の左下角▲を正面とし、正面の斜め上から見た鳥瞰図として描く。
  - ②描く光源を自然光とし、平面図の右下→方向、照射角（高度）30度に設定して描く。
  - ③次に示す素材（色）を設定し、それぞれの素材（色）が伝わるように写実的に描く。
    - ・平面図に示すA：石膏製（白色）
    - ・平面図に示す基底面B：平坦な紙製面（光沢のない白色）
  - ④使用する描画材は、鉛筆、消しゴムのみとする。



第1問題

問1	(1)	B (1点)			
問2	(1)	ア	C (1点)	イ	A (1点)
	(2)	塑造 (2点)			
問3	エ (1点)		問4	ウ (1点)	
問5	題材名	(例)「生き生きとした瞬間をかたち」(2点)			
	理由	<p>(例) 本学習の主な活動は、躍動感や生命感を感じさせる動きのある人物像を粘土で立体的に表現することである。躍動感や生命感がある状態とは健康的で活気がある様子であり、「生き生き」という言葉で表すことができる。活動②⑤の鑑賞活動や活動③④の表現活動において、躍動感や生命感を感じさせる動きについての造形的要素を考え味わったり、自由に発想して構想を練ったりする際に、生徒が具体的にイメージできるよう、「生き生きとした瞬間をかたち」という題材名を設定した。</p> <p style="text-align: right;">(2点)</p>			

1点 × 5 = 5点  
2点 × 3 = 6点 合計 11点

第2問題

問1	④	ウ	⑤	オ	⑥	イ
	⑦	ア	⑧	エ	問1 完答で(3点)	
問2	⑨	対話 (1点)		⑩	言語 (1点)	
問3	(1)	ア、ウ (1点)		(2)	イ (1点)	
問4	(1)	インクルーシブ (2点)				
	(2)	活動	活動① (1点)			
		学習方法と着目点	<p>(例) はじめに、個人で図アと図イのそれぞれの遊具の特徴をワークシートに記入する。その後、ユニバーサルデザインとしての良さをグループで話し合う。最後に、学級全体で意見を共有する。その際に、用と美の調和や使用する多様な人々への配慮などに着目させたい。</p> <p style="text-align: right;">(3点)</p>			

1点 × 5 = 5点  
2点 × 1 = 2点  
3点 × 2 = 6点 合計 13点

整理番号	

(この欄は記入しないこと)

第3問題

問1	①	ウ (1点)	②	ア (1点)	③	オ (1点)	
	④	エ (1点)	⑤	イ (1点)			
問2	(1)	⑥	凹 (2点)	⑦	凸 (2点)	⑧	質感 (2点)
	(2)	コラグラフ (2点)		※⑥が凹、⑦が凸。逆は不可			
問3	(1)	⑨	オ (1点)	⑩	ア (1点)	⑪	カ (1点)
	(2)	印 (2点)					
問4	(1)	⑬	点画 (2点)	⑭	ゴシック (2点)	⑮	ウロコ (2点)
		⑯	明朝 (2点)				
	(2)	スペーシング (2点)					

1点 × 8 = 8点  
 2点 × 10 = 20点      合計28点

第4問題

問1	作者名	ウ (1点)	作品名	オ (1点)		
問2	A	ウィリアム・モリス (2点)	B	生活 (2点)	C	アーツ・アンド・クラフツ (2点)
問3	作者名	柳宗理 (1点)	作品名	バタフライスツール (1点)		
問4	D	抽象 (2点)	E	ワシリー・カンディンスキー (2点)		
問5	(1)	エミール・ガレ (2点)	(2)	アール・ヌーヴォー (2点)		
問6	(1)	アルブレヒト・デューラー (2点)	(2)	ルネサンス (2点)		
問7	F	葛飾北斎 (2点)	G	浮世絵 (2点)	H	肉筆画 (2点)
問8	(1)	ジョルジュ・スーラ (2点)	(2)	新印象主義 (2点)		
問9	ジャコモ・マンズー (2点)					
問10	(1)	アンディ・ゴールズワージー (2点)	(2)	ランド・アート (2点)		

1点 × 4 = 4点  
 2点 × 17 = 34点      合計38点

整理番号	

(この欄は記入しないこと)

第5問題



(10点)

整理番号	

(この欄は記入しないこと)